

## 2024年中国家電輸出データの公表

税関総署の統計データによると、2024年12月、中国の家電製品の輸出量は38360万台に達し、前年同期比で16.1%の顕著な増加となった。年間累計輸出量は448144万台の大台を突破し、前年同期比で増加率は20.8%に達し、強い対外貿易の増加傾向を示した。

四大家電をみると、エアコン（481万台/+32.5%）、冷蔵庫（636万台/+10.7%）、洗濯機（282万台/+18.3%）、液晶テレビ（936万台/+17.5%）の輸出はいずれも二桁成長を実現した

2024年の中国の家電輸出状況は力強く、各品目は全ラインナップで人気を博した。エアコンの伸び率は技術的優位性を示し、冷蔵庫、洗濯機は着実に成長し、液晶テレビは安定した輸出を維持し、中国製製品の国際的な競争力と産業チェーンの粘り強さを示した。

## 石頭科技は国際市場戦略を深化：ヨーロッパ、アジア太平洋を新しい成長ポイントとする。

海外市場は石頭科技の成長の主なエンジンである。2024年の海外事業の売上高は前年同期比で51.06%増の63.88億元で、伸び率は国内市場の25.39%を大幅に上回り、海外事業の売上高の占める割合は53.5%に達した。

石頭科技はアメリカの関税の影響に対応：ベトナム工場の運営は正常で、価格調整及びサプライチェーン最適化方案を研究することで、貿易リスクに対応する。同時にヨーロッパ、アジア太平洋市場の開拓を加速し、国内販売を拡大し、グローバル販売構造を改善する。

スマートクリーン分野のリーディングカンパニーとして、石頭科技は卓越したグローバル市場対応能力を有している。アメリカの関税の圧力に直面し、同社はベトナム工場の供給保証、サプライチェーンの最適化などの対応策を迅速にスタートさせると共に、ヨーロッパ/アジア太平洋市場の開拓と国内販売の配置を加速させ、世界的な業務構造の動的バランスを調整した。

## AUCMAの東南アジアの配置：インドネシアのスマート冷蔵庫の生産基地プロジェクトに着手

AUCMAの2024年の売上高は78.16億元（前年同期比-15.99%）で、国内市場の需要が低迷しているため業績が圧迫された。会社はタイムリーに戦略の重心を調整し、海外市場の配置を加速し、輸出業務は逆に7.67%増加し、業績の新たな目玉となった。

AUCMAはASEAN最大の経済体であるインドネシアをターゲットにし、3億6000万元を投資して年間50万台の冷蔵庫スマート製造基地を建設し、輸出貿易から現地化生産への転換を推進し、海外の新たな成長点を開拓した。

AUCMAのインドネシアでの現地化生産は輸出規制を突破し、現地資源と政策優位性を利用してコスト削減と効率化を図り、市場からの反響と競争力を強化することができる。これは貿易的な障壁を回避し、世界的なサービス能力を広げ、業界の地位を固めるのに役立つ。

## TCL智家は6億8000万元を投じてタイに冷蔵庫・冷蔵ケースの新生産拠点を建設

TCL智家は6月10日、子会社の奥馬冰箱を通じて6億8000万元を投資し、タイのチョンブリ県に生産拠点を建設すると発表した。第1期は0.8億元を投資して工場の建物を賃貸し、30万台/年の冷蔵ケースの生産ラインを建設し、第2期は6億元を投資し土地を購入して140万台/年の冷蔵庫の生産ラインと関連施設を新設する。

今回の調整は、東南アジアの生産能力の配置を加速させ、ターゲット市場を開拓し、リスク耐性を強化することを目的としている。工事完成後、タイ及び周辺地域におけるTCL智家の冷蔵庫・冷蔵ケースの供給能力を著しく向上させ、グローバル生産ネットワークを整える。

TCL智家傘下の奥馬冰箱は16年連続で中国の冷蔵庫輸出首位を獲得し、日本、イギリス等の主要市場で1位を占めている。TCL智家の今回のタイ工場建設は、世界的なサプライチェーンを整備し、市場シェアを拡大するための製品構造を最適化すると同時に、国際貿易リスクに対応するプレッシャー耐性を強化し、核心的な競争力を高めることを目的としている。

## ASDは1億5000万円でベトナムに炊事器具家電ロボット基地を建設

ASDの海外業務は急速に成長し、2024年の外国販売収入は45.8%を占め、前年同期比で39.79%増加し、国内販売の伸び率をはるかに上回った。同社は国境を越えた電子商取引を通じて世界市場を開拓し、調理器具、小型家電などの業務は強い粘り強さがある。ASDはベトナムに炊事道具、小型家電及び産業用ロボットの研究開発・生産基地を建設し、同時にマーケティングネットワークを配置し、資金は子会社の設立、工場の賃貸及び生産ラインの建設などに使用する予定と6月に発表した。

中国企業は東南アジアへ進出を加速させ、投資による工場建設を通じて海外市場を開拓し、貿易リスクを回避している。ASDの今回の海外進出は従来の調理器具、小型家電業務に焦点を当てるだけでなく、産業用ロボットを海外展開の新たな重点としている。